

平成21年度後学期 学生による授業評価アンケート調査 (最終)

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	森本隆子	
講義コード	23310455010		講義名	日本語文化各論VI	
開講曜日	火曜日	5.6限	専門科目		
授業回数	15回	休講回数	0回	補講回数	0回
			受講登録者数	81人	
成績評価に際し注意した事項					
最終レポートに発揮された実力を評価しながら、毎時の学習の積み重ねも重視した。					
報告内容					
<p>1年生を中心に80余名から編成された概論的講義であったため、授業アンケートについては、どのような結果となるか、かなり冷や汗ものだったのですが、傾向は例年にほぼ同じ、何より、とりあえずは満足度(=意欲度、すなわち吸収度と、かなりの度合い、比例するのではと推察しています)に関わる3つの項目「13 新知識」「14 満足」「15 お薦め」において、そう高くはないものの「7.8」「7.5」「7.6」の数値を得て、少し安堵しています。序論をカルチュラルスタディーズとしての文学研究から始めて、予定を延引しながらではありましたが、コメント用紙と補足プリントの往復で授業を構成できた『こころ』論あたりまでは、自身、それなりの手応えはあったものの、村上春樹からジブリ、女性作家へと続く現代文学系は、みんなからの期待が大きかったのに、駆け足とならざるをえず、こなれの悪いものになってしまったことを、少なからず心配していました。ただ、アンケート記述欄も含め、最終回のコメント用紙には、『こころ』読解の面白さについて記してくれた方たちが多く、おのずからな関心度としては、より高かったはずの現代モノでは、必ずしも要望にお応えしきれなかったことを痛感しています。「拙速」の否めない展開になってしまいました。</p> <p>以下、アンケートの細目について。「8 公平」「9 質問応対」「10 雰囲気秩序」は8点台を獲得できましたが、同系列でも「7 反応の確認」になると「6.6」と落ち込んでしまい、これについては、毎回、異論から疑問までをコメント用紙に記してもらっては可能な限り丁寧に応対した補足プリントを配布するなど、最も心を砕いたつもりでしたが、全く、及ばなかったようです。集計表を見てみると、「A」を中心に「9~7点」台が62%と他に比して少なくなっており、逆に「B」評価に続いて5名が「C+」評価を下しています。授業時間完結後の「応答」レベル以前に、授業内での話し方や展開の仕方自体に難があったことを自戒します。話が、ややもすれば抽象的観念的になりがちな弊を、細部まで詰めた具体化へ改め、転換を図りたいと思います。</p> <p>「満足度」との相関関係は、上述の項目に「11 シラバスの反映」なども加えた7項目で「80」を超えていますが、「2 板書」は満足率「30」で平均値も「5.1」と例年以上に厳しい結果が出ました。板書については、中間アンケート時点で、記述欄も含めて要注意であることは教室でも披露し、努めたつもりながら、急ぎ始めた最後の数時間は、内容自体もさることながら、板書も、つい乱れがちであったように思います。これらをそのまま反映して、「偏差値CSグラフ」でも、「良好」の1番の象限に5項目が入っているものの、逆に「問題あり」の4番目の象限にまずは「7 反応の確認」が入り、ギリギリではあるものの「4 主題の明確さ」「12 難易度」も入っていて、要注意項目として留意を促されました。</p> <p>記述欄では、複数、重なった内容に「背景や流れの楽しさ」「読解の面白さ」「プリントの充実」等があり、担当者としてはこれほど嬉しいことはありません。本当に有り難う。一方、板書の難や早口、については、ここでも幾つか散見され、今後、努力で、少しずつ改めてゆくことができると念じています。</p>					